

区政をもっと身近に!

区議会初当選をさせて頂き、お蔭様で4年が経とうとしています。
 議会では区議会責任第一党の一員として江戸川区における諸課題の解決や健全な予算編成等に向け、提案も含めお訴えをさせて頂きました。これからも施策実現に向けて努力を続けてまいります。
 私の前職は民間企業で約11年間、飛び込み営業中心の新規顧客開拓業務を担当していました。厳しい経済情勢の中、血の出るような思いで戦っている中小企業等で働く方々の熱い思いや痛み、困窮した現状を肌身で感じ、学べた事は、政治を志す原点でありました。
 これからも、皆様のお声を胸に、**区政の最前線**で全力を尽くしてまいります。



消防操法大会選手(2番員)として



被災地にて(岩手県釜石市)



駅頭遊説を石破茂地方創生担当大臣と共に



震災後、福島第二原発にて



中園師さくら公園開設セレモニーにて



篠崎少年野球大洋杯優勝旗授与



東京開催決定 2020年オリンピック・パラリンピック 自民党は今後も成功に向けて、全力を注いでまいります。 下村博文文部科学大臣(東京オリンピック・パラリンピック担当大臣)

安全・安心なまちづくり
 スポーツ振興に 全力投球!!

大西洋平 プロフィール

- ★1978年1月大西英男の次男として江戸川区で生まれ育つ
- ★西小松川小・松江二中・修徳高校・立正大学を卒業
 明治大学大学院ガバナンス研究科(公共政策)修士課程修了
- 《職歴・議会・地域活動等の主な略歴》
- ★キャノンの販売会社や東急リパブル(株)等サラリーマン生活11年
- ★2011年4月江戸川区議会議員選挙において、小泉敏夫前区議の後継者として挑み初当選(58名中/第2位)
- ★文教委員会委員、災害対策・街づくり推進特別委員会副委員長
- ★篠崎少年野球連盟相談役、江戸川ポニーリーグ協会(中学硬式野球)会長
 江戸川ジュニア・セントラルリーグ(少年野球)名誉会長
 京葉シニア野球連盟顧問
- ★江戸川ラグビーフットボール協会顧問・立正大学体育会ラグビー部OB会名誉会長
- ★江戸川区こども会連合会京葉支部顧問・篠崎小すくすくスクール顧問
- ★公益財団法人京葉鈴木記念財団(青少年育成)顧問・小岩消防団第七分団所属
- ★自民党江戸川区第37支部長・自民党政経塾修了(第5期)



区政報告 レポート 2015

大西 洋平

江戸川区議会議員
 災害対策・街づくり推進特別委員会副委員長
 ようへい

大西洋平 事務所 <http://www.youhei.me/>
 〒133-0061 江戸川区篠崎町2-1-10-305
 Tel.03-5664-2024 / e-mail:0024@youhei.me

区議会定例会一般質問 (抜粋版)

平成23年度第4回区議会定例会

水害から守る治水対策・高台づくりについて

大 西 国土交通省発表の「高規格堤防整備の抜本的見直しについて」の中では、「人口が集中した区域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する可能性が高い区間に大幅に絞り込んで整備する」としている。本区が真っ先に当てはまると大いに期待している。今後、区として江戸川高規格堤防実現に関して、どのように国に働きかけていくのか。

多田区長 必要だという結論が出た以上、早くやるという決断をさまざまな形で国土交通省に迫っている。政権がこの問題に対する回答を出していない。何としても粘り強く頑張っていきたい。

大 西 中川左岸の治水対策について

- ①災害の危険性が非常に高いと考えられる中川左岸堤防についての考えは。
- ②「江戸川区における気候変動に適応した治水対策検討委員会」の最終とりまとめが、平成22年4月に出されたが、その後の進捗状況は。

多田区長 ①堤防の強度が最も危惧される場所である。どれだけ時間がかかっても、強化していかなければならないと思っている。
②実施のための計画ではなく、考え方をまとめたものである。将来に生かすよう、その方向にもっていくべく努力していきたい。治水は、数々の災害を受けてきた区民の願いなので、悲願達成のために何をすべきかをしっかり踏まえ、相応の努力をしていく。

→平成26年度から、都の河川施設整備計画、中川防潮堤耐震補強工事区間として松島地域約600m区間の整備が決定!

大 西 篠崎子ども未来館は、子どもたちの期待に沿う、夢が膨らむ施設である。これまでの利用促進に加えて、平日の有効活用を含め、より一層の充実を。

多田区長 学校・家庭でできない勉強、興味を満たすような勉強ができるような場として、成果を確かめながらよりよいものにしていきたい。



区政発展へ多田区長ともスクラムを組みながら!

平成25年度第4回区議会定例会

生活保護不正受給者やその疑いには厳しい対応を

大 西 区は北小岩1丁目東部地区における高規格堤防整備事業と土地区画整理事業に関する基本協定を国土交通省と締結した。低平地で水害が危惧される本区にとって念願の事業である。安全面等が危惧される当該区域が、事業によってどう改善されていくのか。

多田区長 公共空間の拡大や堤防強化、家屋の不燃化や耐震化の進展によって安全な街になる。また、スーパー堤防整備計画の出発点という意味も大きいと言える。

大 西 公共交通の整備は交通手段の確保や利便性の向上だけでなく、福祉健康施策としての視点を持つことも重要である。平成27年に国の答申が予定されているメトロセブン事業について、組織を横断し関係機関が一体となって実現へ向けた働きかけを。

多田区長 平成27年の答申に向け、国土交通省や都に働きかけをしている。福祉健康施策の面も含め、必要性を強く訴えていきたい。

大 西 松島3丁目地区は住宅の戸数密度や木造住宅の比率も高い状況から、不燃化特区として申請を行い、4月に特区指定される予定である。当該地区の住民の協力を得て、不燃化促進の支援をどのように進めていくのか。

多田区長 昭和56年以前の建物の耐震強化に向けさまざまな支援をしているが、PRを強化し、当該地区の住民にきめ細かく勧奨していきたい。他地区では建築士事務所協会と提携して取り組んでおり、同様に進めていきたい。

大 西 生活保護問題で、不正受給者やその疑いがある人には毅然と厳しい対応を取る必要がある。自立支援強化や不正受給対策強化等を含んだ生活保護法改正を踏まえ、今後の取り組みは。

多田区長 生活保護受給者は景気との関係もあるが、不正受給の防止と就労支援の強化に取り組んでいる。今後さらなる取り組みを強化していきたい。

→平成26年度生活保護費当初予算約400億円から約23億円の削減へ!



平成24年度第4回区議会定例会

建物耐震助成制度のさらなる充実を

大 西 事業仕分けによって廃止と判定された高規格堤防だが人命を守るという見地から、見直しが行われ、江戸川区は整備区間に該当することになった。また、昨年8月に発表された都の水害対策に関する基本方針が、中川左岸堤防のさらなる強化につながると期待している。河川管理者である国や都の河川整備の認識が進展している中、今後の江戸川と中川の整備についての具体的な考えは。

土木部長 自然災害は必ずやってくる。今できることを行うことが、次世代の人達に対する責務である。江戸川の整備は、ゆるぎない決意を持ってスーパー堤防という抜本策を時間がかかろうとも積み重ねていきたい。中川については、都と具体的に検討し、早期に堤防強化についての目標を定めていきたい。

大 西 首都直下型地震が危惧されている中で、建物の耐震化は重要である。木造借家への適用など耐震助成制度のさらなる充実を。
多田区長 2回にわたり耐震助成制度を拡大してきた。木造借家については、所有者の同意や負担等の条件があるので検討していきたい。

→平成25年4月より、新たに木造借家や木造賃貸住宅にも助成制度の拡充が決定!

大 西 スポーツを観光振興に活用するスポーツツーリズムは、地域振興や消費の拡大に効果があるとされている。2013年には東京国体も開催される。本区の充実したスポーツ文化、施設を活用し、あらゆる角度から地域発展のための取り組みを。
多田区長 スポーツを通じたさまざまな取り組みで地域をにぎやかにし、活性化できる。これからもさまざまな努力をしていきたい。



平成26年度第4回区議会定例会

長期間未使用の区有地はスポーツ振興等、暫定的な開放を

大 西 区立篠崎幼稚園の閉園に関する条例が可決されたことで、昭和47年4月に開園以来、長年地域に愛されてきた篠崎幼稚園が28年度末に閉園となる。閉園に至るまでには、さまざまな厳しくも貴重なご意見もいただき、それだけ地域に愛されてきた施設であることを示している。そのような伝統ある幼稚園の跡地利用については、多くの方々も期待があるが、どのように考えるか。

多田区長 時代の変化とともに幼児が減り、廃園の決定に至った。しかし、幼児の施設としては立派な施設であるので、区の行政課題の一つである障害児に対する養育に関わる施設への転用を考えている。地元の皆さんにも十分ご理解をいただいております。どのような内容にしていくかを今後詰めていく。

大 西 ゼロメートル地帯を多く抱える低平地の本区にとって、治水対策は急務である。中でも重要な治水対策として、江戸川の高規格堤防事業があり、先に事業化された北小岩地区では、今年の11月に全ての権利者と移転契約が結ばれた。いよいよ上篠崎地区の堤防延長約460メートルの区間について、説明会や協議が開始される。国の高規格堤防整備事業と連携する上篠崎一丁目北部土地区画整理事業について丁寧な対応が求められるが、今後の事業のスケジュールは。

多田区長 上篠崎一丁目北部土地区画整理事業は、高規格堤防事業との共同事業ということだけではなく、東京都の篠崎公園高台化構想の早期実現のためにも、欠かすことのできない事業だと認識している。地域の皆さんに、土地区画整理事業だけでなく事業全体の説明をする予定であり、地域の方々に寄り添って進めていく。都市計画道路事業や高規格堤防事業も含め、平成38年度に全て完成する目標で進めていく。

大 西 本区は毎年20億円前後の土地を取得しているが、一定期間使用しない区有地が存在している。そうした未使用地について、一時的な広場として開放してもらいたいという区民からの要望も多く、近隣にグラウンドを持たないスポーツ団体にとっては活動場所の確保は願望である。さらに東京五輪誘致決定後、区内全体でスポーツへの気運が高まっている今、子どもたちが活動する場所の確保は重要であり、あらゆる可能性を模索する必要がある。スポーツ振興等のために、長期間未使用の区有地について暫定的な開放を。

多田区長 具体的な話があれば相談したいと思うが、今空き地になっているところは、近い将来、活用する方向性が出るころ、または事業が行われる時には、必ずその事業に使われる所である。暫定的な利用の場合、ある程度期間が必要であり、解放したけれどすぐやめてしまうということがないよう考慮する必要がある。

大 西 小学校の学習指導要領解説書に体育の授業で採用するべき競技の一つとして、新たに「ラグラグビー」が例示された。ラグビー特有のフェアプレーの精神は、相手を思いやる気持ちや協調性、人と人がコミュニケーションしていく上で、必要な基本的かつ重要な感性が凝縮されている。希薄な人間関係などさまざまな問題や課題を抱える教育現場において、未来を担う子どもたちが豊かな人間性を育む方法の一つとして、「ラグラグビー」の小学校の体育授業での指導を。

教育長 小学校の体育授業は、生涯にわたって運動に親しみ、体力向上を図りながら豊かなスポーツライフを送るための土台づくりと考える。「ラグラグビー」については、みんなで知恵を出し作戦を練るなど、教育上の視点からも非常に良いと思う。限られた時間の中でバランスよく指導を行っていきたい。

